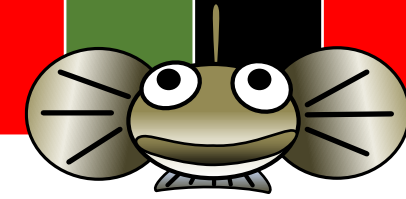


第1回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「勉強会2021のふいかえいと江戸前勉強会
2022のねらい」（古川恵太）
- **話題提供**
「東京湾再生のための行動計画(第3期)
の骨子について」
(福本峻吾さん、東京湾再生推進
会議モニタリング分科会ご担当)
- 意見交換
- おわりに

東京湾再生のための行動計画（第三期）（仮称）
に係る目標・施策・評価指標の関係（案）

目標：流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出

目標の柱

関連施策※2

評価指標

豊かな水環境の実現

多様な生物が生息する、
「江戸前」の恵み豊かな海
(小目標)※1

- ・干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創出
- ・海域における汚泥浚渫
- ・覆砂
- ・深堀跡等の埋め戻し
- ・生物共生型港湾構造物の整備・改修
- ・浚渫土砂等の高度利用の推進
- ・汚濁負荷量の削減
- ・河川浄化対策
- ・大雨後における流竹木等の対策
- ・栄養塩類の偏在化への対応を検討

等

美しく、快適に水遊びの
できる海
(小目標)※1

- ・汚濁負荷量の削減
- ・河川浄化対策
- ・森林保全活動
- ・海域における汚泥浚渫
- ・浮遊ゴミ・漂着ゴミの回収

等

楽しく、親しみやすい
東京湾の創出

楽しさあふれるイベントの
開催
(小目標)※1

- ・東京湾大感謝祭等のイベントの開催
- ・環境教育・体験活動等の推進

等

海辺に行きやすく、身近で
安心できる海
(小目標)※1

- ・親水公園等の魅力向上
- ・水辺の開放
- ・干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創出

等

活動の環（わ）の拡大

活動の環（わ）が繋がり、目標
の実現のために流域の多様
な主体が協力し合う海
(小目標)※1

- ・東京湾環境一斉調査の継続
- ・NPOや企業、漁業者等による藻場等の造成の推進
- ・海域と流域の循環に資する連携
- ・国・地方自治体間の情報共有の促進
- ・東京湾再生官民連携フォーラムへの行政の参画拡大
- ・民間取組等による生物多様性保全の促進
- ・企業の環境活動との連携
- ・環境教育等の機会の提供

等

評価指標及び当該
指標に対する数値
目標等については、
東京湾再生官民連
携フォーラムの議
論等を踏まえ決定

※1 計画の達成段階等を明らかにするための小目標を設定することとし、今後仔細を検討していく。
※2 関連施策の詳細については、今後、精査していく。

東京湾再生のための行動計画（第三期）（仮称）骨子
令和4年7月
東京湾再生推進会議幹事会

目標

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す。

～ 流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出 ～

豊かな水環境の実現

楽しく、親しみやすい
東京湾の創出

活動の環（わ）の拡大

計画のポイント

- ・ブルーカーボン生態系の利活用等による「江戸前」の恵みの再生
- ・多様な官民連携の推進と、流域3,000万人が繋がる交流機会の創出
- ・第二期計画からの取組についても継続的に推進

計画期間・体制

- ・計画期間は令和5年～令和14年までの10年間。段階的な中間評価を実施
- ・全体目標の達成段階を示す小目標を設定し、その評価指標を官民協働で決定
- ・東京湾再生の取組として、重点エリア（アピールポイント）を再設定
- ・東京湾再生官民連携フォーラムとの一層の連携

主な施策

陸域対策

- ・下水道や浄化槽等の污水处理施設の整備や高度処理、合流式下水道の対策を進め、東京湾に流入する汚濁負荷量を削減
- ・多様な主体が連携し、雨水貯留・浸透施設の整備や、市民参加型のごみ回収等の施策を推進

海域対策

- ・干潟・浅場・藻場等のブルーカーボン生態系の保全・再生・創出
- ・覆砂、汚泥の除去等による底質の改善、深堀後の埋め戻し等を推進
- ・市民やNPO等による海岸清掃活動や海洋環境整備船等による浮遊ゴミや油の回収
- ・東京湾の自然環境を生かした環境教育等、情報発信の機会の創出

モニタリング

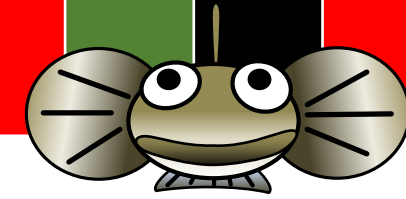
- ・官民が協働で実施してきた東京湾環境一斉調査の継続
- ・国や自治体、各研究機関等の協働による水質監視体制の維持
- ・官民が連携するモニタリングについて生物指標の導入等を検討

官民連携

- ・「東京湾の日」や「東京湾大感謝祭」等を通じて連携イベントを開催
- ・自然共生サイト（仮称）認定を通じた民間取組等による生物多様性保全の促進
- ・東京湾再生官民連携フォーラム等との更なる連携の推進

令和4年度
東京湾再生推進会議
臨時幹事会資料
(令和4年7月27日)

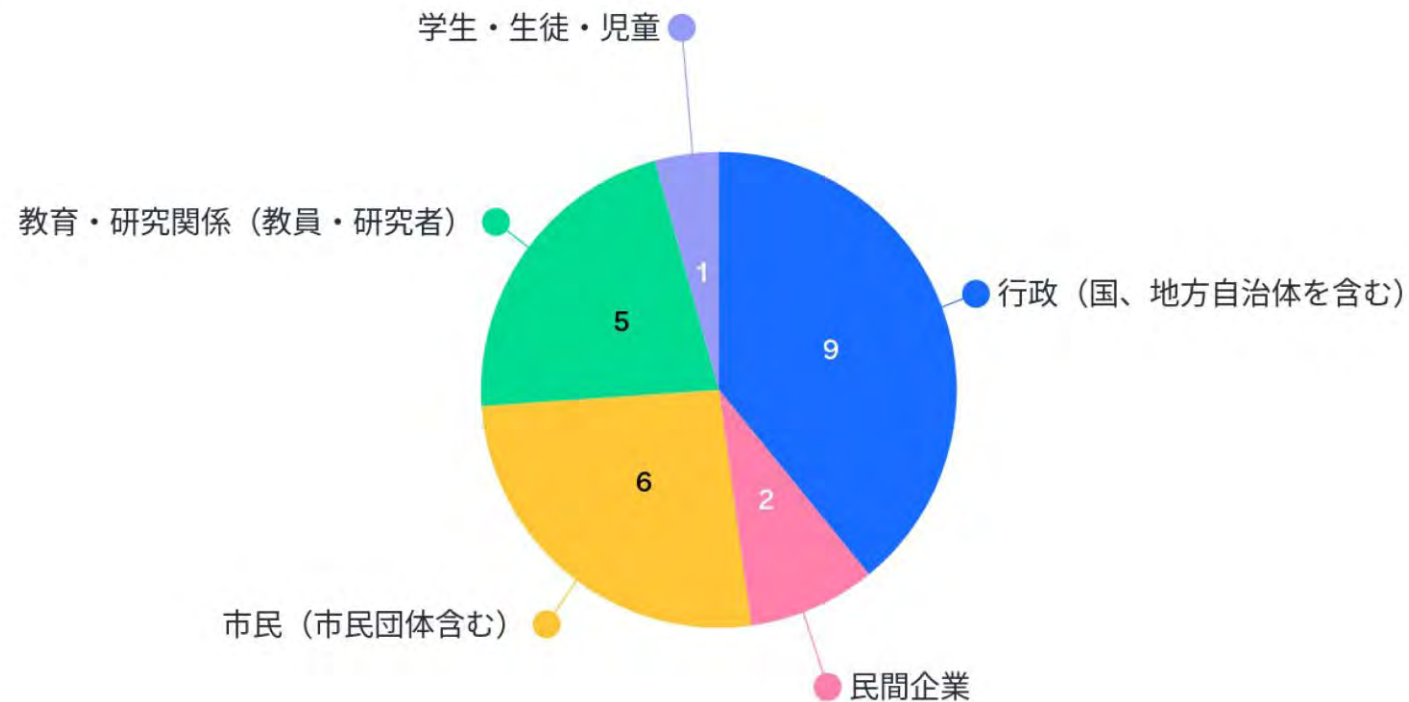
第1回



江戸前勉強会2022

- はじめに
「勉強会2021のふいかえいと江戸前勉強会
2022のねらい」（古川恵太）
- 話題提供
「東京湾再生のための行動計画(第3期)
の骨子について」
(福本峻吾さん、東京湾再生推進
会議モニタリング分科会ご担当)
- **意見交換**
- おわりに

ご所属を教えてください (入力の練習を兼ねて)



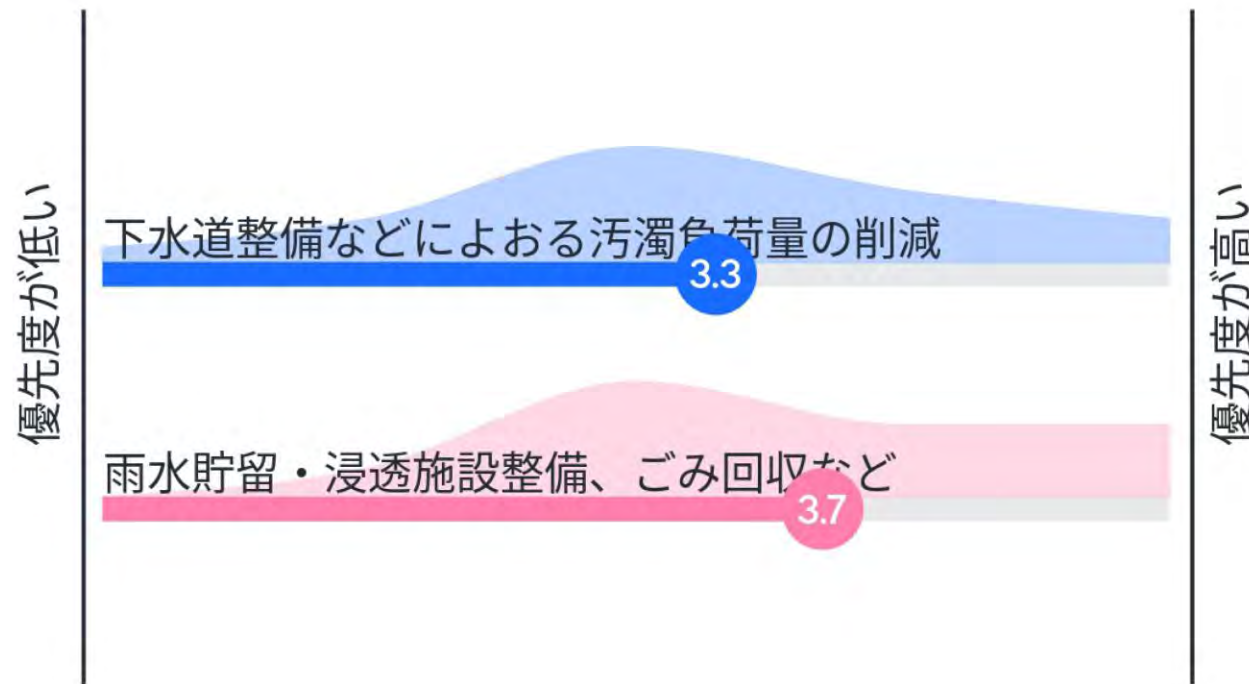
どんな東京湾にしたいですか？

リラックスできる海辺
多くの人との心の距離が近い東京湾
透明度の増大＝土砂濁りと赤潮の軽減
千葉側のような砂浜・浅場・藻場が豊富
港湾域でも多くのアクセスし易い
つながる 貧酸素水塊のない海
適度な綺麗さの 触れれる海
生きものや癒される風景と出会える身近な海
感じられる海 憩い 潮干狩りできる
気楽に楽しめる 陸の環境との調和
かつてのように底生魚介類が豊富
周辺住民が状態を知り・意識出来る
かつてのように漁獲が上がる
多くの人に知ってもらえる東京湾
生き物が沢山みられる海

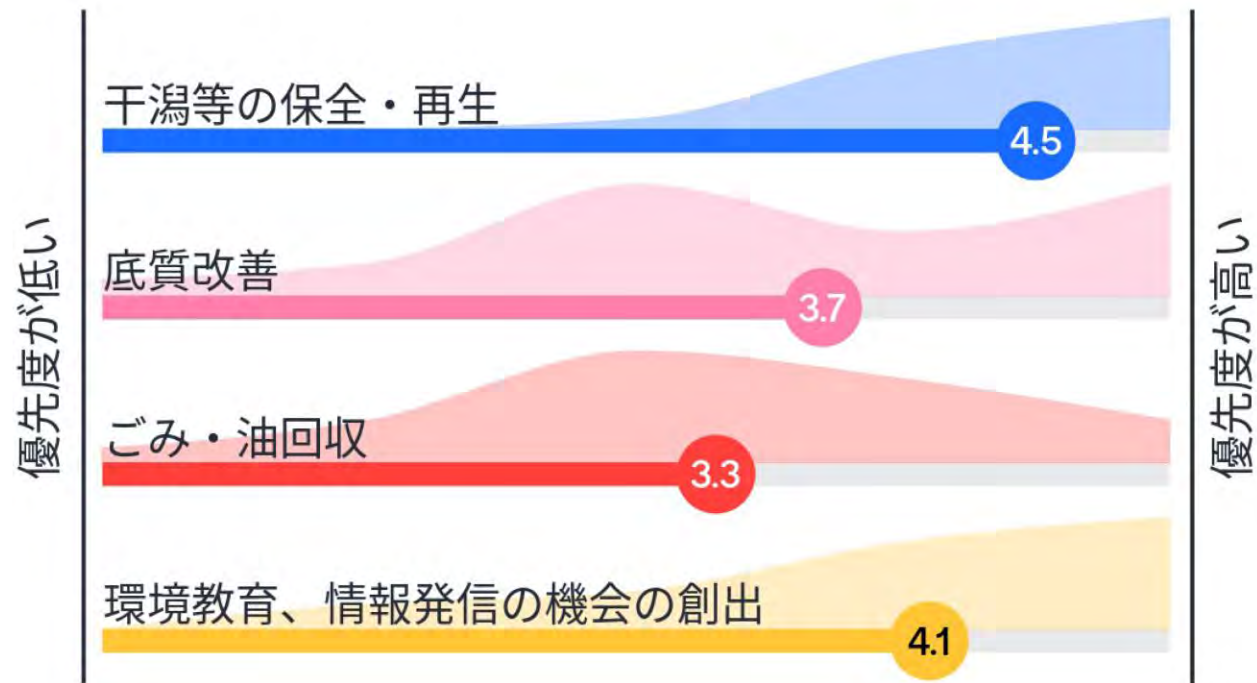
市民が楽しめる豊かな海
気軽に海辺に行ける
生き物がたくさんいる
きれいな海
多様な
行きたくなる
さかなが豊かな東京湾

味わう
楽しむ
キレイ

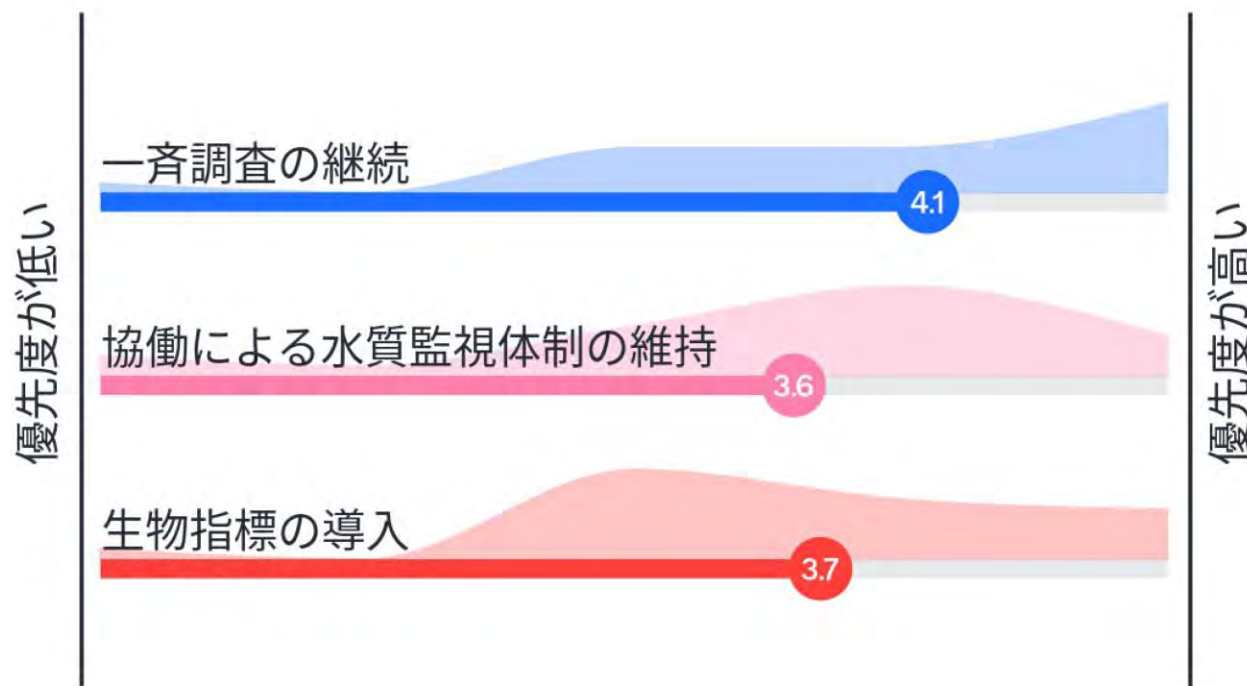
骨子で示された施策の優先度を教えてください (陸域対策)



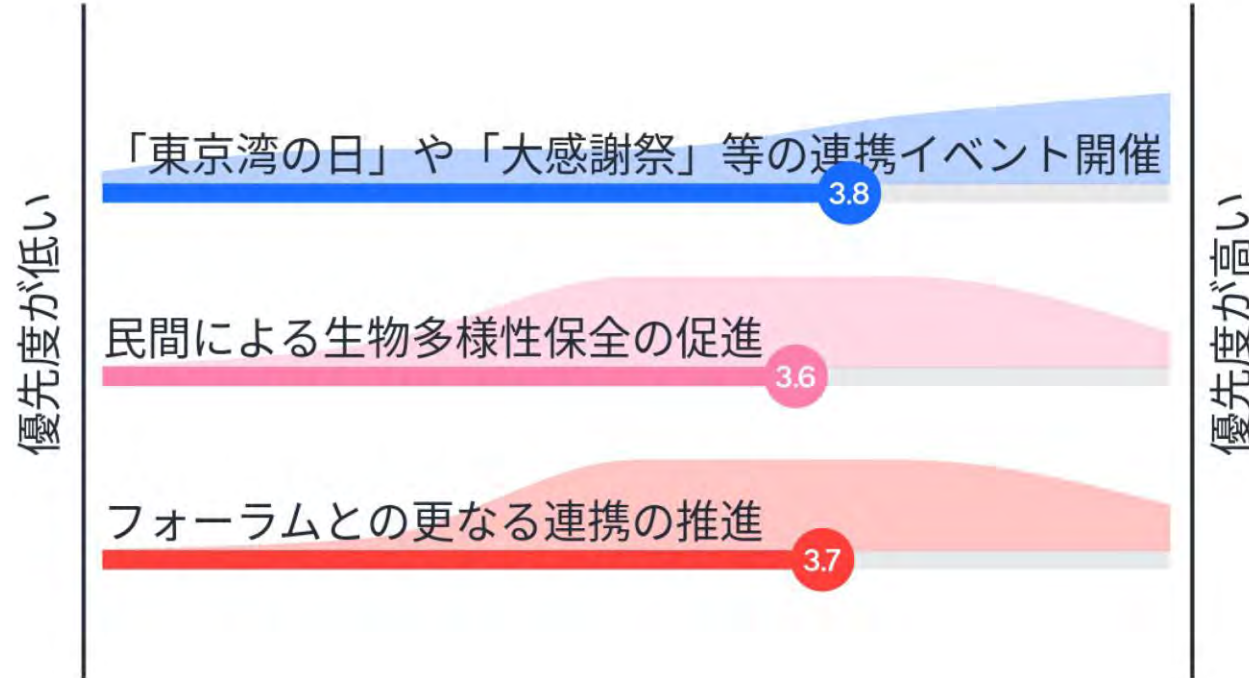
骨子で示された施策の優先度を教えてください (海域対策)



骨子で示された施策の優先度を教えてください (モニタリング)



骨子で示された施策の優先度を教えてください (官民連携)



ご意見をどうぞ

ご苦労様でした。

負荷削減と豊かさの両立が肝心ですね

陸域や海域，モニタリングとは別に，交流機会や教育，普及啓発については別個の分科会が東京湾再生推進会議に必要ではないでしょうか？

まちづくりなど、陸地での活動をしている団体があります。彼らとの共通の関心が持てると良いですね。

質問になってしまいすみません。アンケート結果を改めて見て東京湾大感謝祭等のイベントは官民が交流することができる大切な役割を果たしているのだなと思いました。東京湾大感謝祭が10年開催されたとのことで、来年以降は形を変えてでの開催と伺っているのですがどのような形になるのか非常に気になります。

一回くらい対面でできたらいいですね

特に優先順位を着けることが無くおしなべて大事だと思いました

学生の方の参加がもっと増えると新しい視点の意見が聞けて、楽しくなると思いました。

ご意見をどうぞ

東京湾再生官民連携フォーラムと再生会議（官・行政側）との連携の具体的な仕組みを見直す必要があると思っています

栄養塩の足りないところ、余っているところ、解消出来たらいいのに。それと底生生物が居なくならないようにしたいです。

100人一杯になるかと思ってました。いつも一定の人出なく色々な人に興味を持ってもらいたいと思います。

東京湾のいろんな活動や魅力や東京湾自体が私たちにもたらしてくれる恵みを知ってもらうための工夫が必要です

入れない場所(海)が、コロナ禍以後極端に増えた。子供にアピールしたい、そうすれば親もついてくるから。潮焼けの磯をなんとかしたい。

若者の参加が必要ですね！

生物指標については、一般の市民にもわかりやすい生き物が増えた、減ったということで関心を高めてもらうことができるのではないかと考えます。

流域からの影響は、「汚濁負荷」の他、土砂動態、流量変動、川の形その他いろいろとあると思います。影響の見方も評価軸が変わることにより、評価の結果がプラス、マイナス逆転すると思います。